

HOK-7505 粒剤

(取扱メーカー) 北興化学工業株式会社

対象作物：水稻

性状・作用特性：本剤は処理適期幅が大きく、水稻に対する薬害の小さい吸収移行型、非ホルモン型のシメトリンにフェノチオールを加えて、広葉、マツバイ殺草力を向上させたものである。A粒剤(寒地用)は、シメトリン2.5%にフェ

ノチオール0.7%、B粒剤はシメトリン1.5%にフェノチオール0.7%を含むものである。

使用方法：A粒剤は移植後10～15日(ヒエ1～2葉)又は中耕後(東北北部)に製品3～4kg/10aを処理する。適用地帯は寒地暖地を除く普通期栽培地帯である。B粒剤は、移植後10～15日(ヒエ1～2葉)に製品3kg/10aを暖地普通期栽培地帯で使用する。

使用上の注意：暖地での異常高温時の散布には注意する。

植調協会だより

◎ 支部の発足

当協会では、かねてから各地域単位に支部を設置し、植物調節剤の利用開発研究と普及を積極的かつ円滑に進めてゆくことを決め、昭和44年度に寄付行為の一部を改正し、これが設置について関係機関と協議したところ、東北植物調節物質協議会については、昭和44年度より支部とした。

今回、北海道除草剤協会が発展的に解散し、昭和45年度から、北海道支部として新たに発足することになった。

◎ 研究会の開催

当協会では、従来より雑草防除に関する各種研究会を開催することを決め、次のような研究会を設定し、推進をはかることにした。

1. フラビ防除研究会

昭和45年5月9日(土)、国立教育会館(東京)において開催。嶋村匡俊氏(農林省畜産試験場草地部)よりフラビ文献の紹介、米村寿男氏(農林省家畜衛生試験場研究第4部)より牛の汎骨髄劣について、迫田英一氏(農林省畜産局自給飼料課)より草地開発の現状と今後の方向、真田 雅氏(栃木県酪農試験場飼料部)よりフラビに関する試験研究についての講演の後、フラビ防除に関する除草剤の使用設計について検討した。

2. 除草剤散布能率の増進に関する研究会

昭和45年5月15日(金)、都市センター(東京)において開催した。

まず、当協会より昭和45年度試験実施計画概要を説明し、武長 孝氏(農業機械化研究所)より、散粒用機具の現状報告の後に、昭和45年度の試験設計について検討した。

この研究会の構成は、農林省農事試験場、農業機械化研究所、当協会および傘下の17社で、今年度は、サターンS、スエップM、M0-9、